

【わくわく美術展 審査へのお願い】

<ご意見>

今年もわくわく美術展開催の時期が近づいてまいりました。毎回楽しみに鑑賞させていただいております。審査に当たってはいろいろとご苦勞がおありのことと拝察いたしております。しかしまさかと思うような噂も耳に入ります。どうぞ鑑賞者も出品者も納得のいくような審査をお願いいたします。

なぜこのようなお願いをしたかと申しますと、昨年はまさかと思って聞き流していたことが現実のことでしたからです。というのは審査員本人が指導している教室より4名初出品、そして全員入賞でした。所詮高齢者のお楽しみ、誰が入賞しようと利害があるわけではありませんが、やはり納得できませんでしたので一筆したためさせていただきました。よろしく願いいたします。

<わくわくセンターからの回答>

わくわく美術展は、高齢者の創作による美術作品を展示することにより、高齢者の芸術活動を促すとともに生きがいや健康づくりを増進し、もって明るく活力ある長寿社会づくりに寄与することを目的に実施しています。また、本美術展は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門で構成し開催しています。

入選につきましては、各部門の展示スペースに限りがあることから、許容される範囲で数多くの作品が展示できるように努力を行い、第18回大会からは全点入選（極端に技術の低いものを除く）にて実施しています。

ご指摘の審査については、毎年度『美術展覧会会長』に審査員の推薦を依頼し、推薦を受けた『美術展覧会委員・会員』が、審査にあたっています。

第12回大会以降、審査員は毎回異なり、同一の審査員が連続したことはありません。また、2名の審査員（応募数の少ない彫刻の部を除く）が、同時に一点一点を評価する方法により厳正な審査が行われることで、審査の公平性を保っております。

審査員により、審査の視点の比重の置き方が若干異なることも考えられ、審査によっては、同じような作風の作品が評価されることは考えられますが、ご指摘のように、意図的に一部教室の受講生を入賞として選定していることはなく、公平・公正な審査が行われていると確信しております。

今後とも、わくわく美術展のますますの発展と、明るく活力ある長寿社会づくりに努めてまいりますので、わくわく美術展の開催・運営にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。